

■佐瀬与次右衛門 篤農家。日本で最も早く書かれ、また寒冷地における優れた農業技術書「会津農書」を著した。
させよじえもん
寛永禁書令・1630＝ 会津藩若松城下に近い幕内村で、古くからの農家で村長となった佐瀬家の長男に生まれる。

徳川秀忠没・1632＝ 2歳：

鎖国令V・・・1639＝ 9歳：

家光鎖国完成1641＝11歳：

・・・1645＝15歳：この頃、_早くも、父の名代として村民を指導するほど優秀で、

市中諸法度・1648＝18歳：

徳川家光没・1651＝21歳：

_肝煎として、村の管理運営に当たるとともに、村人への農業指導に力を注ぎ、

明暦の大火・1657＝27歳：

_藩が年貢を安定して確保するべく小農を増やす政策を進め、

諸宗寺院法度1665＝35歳：_藩が総検地を実施、

酒井忠清大老1666＝36歳：

談林派俳諧・1675＝45歳：

徳川綱吉將軍1680＝50歳：_藩が再び総検地を実施、佐瀬家も藩に協力して、土地と農民を手放し石高は82石から30石に減じる。

_そうして生じた新たな小農が自ら農業できる知識を与えるべく、農業技術書の著述を思い立ち、

堀田正俊暗殺1684＝54歳：*「会津農書」を完成。

生類憐令始・1687＝57歳：

世間胸算用・1692＝62歳：_肝煎職を養子に譲って、隠居。

奥の細道・・・1693＝63歳：

生類憐令頂点1695＝65歳：

_ある時、知人が訪ねて来て、「会津農書」では、一般農民に理解しがたいところがあるので、和歌にしたらどうかと持ちかけられ、

赤穂浪士討入1702＝72歳：

団十郎刺殺・1704＝74歳：*「会津歌農書」をつくる。

_なお、長寿を保ち、生涯にわたって、村を離れることなく、

徳川綱吉没・1709＝79歳：

冥途の飛脚・1711＝81歳：_没した。

「人づくり風土記(福島)」、